旧 大和田銀行本店

敦賀市立博物館

敦賀市立博物館として利用されている「旧大和田銀行本店」（相生町）がこの夏、修復事業を終え、新しい姿を見せています。この建物は福井県の文化財に指定されていますが、市では、さらに国の重要文化財の指定を目指しています。

■みなと敦賀の大和田銀行

明治以降、日本の近代化のなか敦賀港は日本海側随一の港としてにぎわいました。港の振興に大きく尽力したのが二代目大和田荘七（安政4年～昭和22年）で、荘七が明治25年に創業したのが大和田銀行です。大和田銀行は、思い切った低金利、貸出条件緩和を提示、また腰の低い客への対応で敦賀の商人らの心をつかみ成功しました。中堅の地方銀行に成長しましたが、戦時中の「銀行を一県に一行とする」政策で昭和20年、三和銀行に合併されました。

この建物は昭和37年、福井銀行に移管され、52年には市に寄贈。市は翌53年、改装し市立歴史民俗資料館として開館しました（平成5年、博物館に改称）。

■市民向けの公共スペースも

「旧大和田銀行本店」の建物は、大正14年に起工し、昭和2年に完成した新社屋です。地上3階・地下1階建てで延べ床面積は1417㎡。鉄骨レンガ造り（地下は鉄筋コンクリート造り）の洋風の近代建造物です。ギリシャ風の柱を配した古典主義的なデザインで、室内には大理石がふんだんに使用されています。エレベーター、水洗トイレもありました。

1階はロビーや営業室などのある銀行用スペース、2階には貴賓室などがあり、3階にはステージを備えた公会堂が設けられ市民に開放されていました。また、地階には金庫室やレストランが。屋上にはサイレンがあり、時を告げていました。

■昭和初期、建設当時の姿を

調査を経た後、博物館を休館し平成24年に修復工事を開始。昭和2年の建設当時の姿の復元を目指しました。修復事業中には写真など市民からの情報提供や、館内からの備品等の発見、また建設時の設計資料の発見などがあり、復元の助けとなりました。

東側から見た営業室。中央は大金庫。全館の多くの天井・柱や壁はしっくい仕上げ

1階

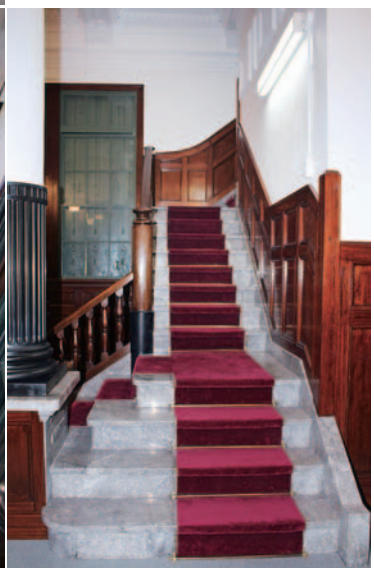
▲ロビーと営業室の間のカウンター・スクリーン

大金庫。上の小さな窓は下の大きな扉が開かない時の予備の扉。地階にも大金庫がある

営業室とロビーの双方から2階に続く、大理石ばり、赤じゅうたん敷きの階段▼

敦賀半島 ふるさと紀行

右側に正面玄関（風除室）とロビー。カウンターの左は営業室



▲カウンターのコーナー部

建物の外部（山車会館側）から直接地階に通じる階段。埋められていたのを今回掘り出した（現在は通行禁止）▼

3階は公会堂として使用されていた。正面にはステージが。当初、床は畳敷きだった。外部から、銀行関係の部屋を通らず直接エレベーターなどで入れた

建設当時の新聞には「摩天閣」と。そのころ、この辺りでは最も高く、港に入った船からは一番初めに見える建物だった

建設時の姿がよみがえる

外岡慎一郎・博物館長に聞く

修復がなりましたね。

約40年前、建物が譲渡されたとき博物館（当時は歴史民俗資料館）として活用するに際し、なるべく建物に手を加えず、仮設の壁や天井などを作って対処していく選択をしました。これが今回の修復が可能になった最大の要因です。

この建物の価値や意義は？

一つは、地方の地元資本で建てられたものであること。二つ目は、当時の建築の一定の水準を維持し、当時の建築の流行・スタイルを取り入れているという点ですね。三つ目は銀行なのに、公会堂や、レストランに活用できる地下スペースを最初から設けていたこと。しかも、そこへは銀行用の空間を通らずにすむよう、階段やエレベーターが設けられていた。これは、当時の洋風建造物のなかでもユニークなものです。

修復事業中に感じたことは？

修復前に耐震診断したのですが、現在の耐震基準をクリアしていました。着工が関東大震災の2年後なので地震が意識されたのでしょう。それが、まず驚きでした。

2階には貴賓室など豪華な部屋がありました。敦賀には、有力な外国人も来ていましたが、彼らを迎えるためであったのでしょうか。これもユニークさでしょう。

建設当時の姿を目指したとのことですね。

1階のカウンターは一部がなくなっていたので、同じようなものを探しました。カウンターの上のスクリーン（仕切り）も実物がなく、写真などを元に再現しました。貴賓室の壁布とじゅうたんは元のものが残っていて、精密に復元できました。

公共スペースだった部屋はどう利用？

3階の公会堂はイスを並べて50人ほど入れ、講座や音楽会などが開けます。地下はレストランにはできませんが、趣味などの展示会とか、小人数のサークル活動などに使えます。利用を期待しています。

今後は？

重要文化財の指定を目指したいと思っています。博物館としては、展示もどんどん変わりますし、特別展等も頻繁に行っていきます。何度も足を運んでいただければと思います。

地階の元レストランだった部屋。当時としてはなじみの薄かった洋食が楽しめた。左手奥へと大きな部屋が二つ並ぶ。外付け階段で屋外から直接入れた

◀元レストランの窓。地上から空堀（ドライエリア）を掘り、窓から採光、換気していた。今回、埋まった空堀を掘り起こしている

館内の古い時計はドイツ製。電動式で、親時計と各部屋の子時計が連動していた

手前が球戯室、奥が会議室。2室の境の壁は工事前に取り払われていたが、今回は復元していない（2月撮影）（現在は展示室として使用されている）

貴賓室。じゅうたんや壁布は当時の現物に極力忠実に復元した。手前のソファは当時のもの▼